

日付	2014年1月31日	場所	504教室
参加者	斉藤先生、飯田先生、須藤先生、江川先生、上原先生、五十嵐先生、石井先生、田邊先生、森田先生		
発表者	プレゼンター：竹内涼太 オペレーター：富樫晃介 メンバー：一宮侑司		
発表内容			
1	船橋情報ビジネス専門学校における学園祭の現状		
2	学園祭管理システム[safna]の紹介 ・コンセプト ・メリット・デメリット		
3	現状の開発状況の説明 (商品登録→在庫確認→レジ の流れを実際に操作して説明)		
5	卒業研究の終わりに ・良いシステムとは ・所感		
質疑応答の内容			
木村：なぜ「safna」というアイランド語を選んだのですか？			
竹内：元々「集める」というコンセプトを考えていたので、翻訳をかけていたらsafnaという綺麗な言葉に惹かれました。			
石川：「一人でやった」とありますが、これらのものを一人でどうやってやったのですか？			
竹内：所感では省いてしまいましたが、学校に対して本気で使ってもらいたいからこそ、やり切ることができました			
江川先生：ご自身の中で、このシステムの完成度の進捗はどうですか？			
竹内：40%ぐらいです。しかし、プレゼンが終わって「ハイ終わり」というわけではなく、今後も作り続けていきたいと考えています。			

講評の内容
<p>須藤先生</p> <ul style="list-style-type: none">・ safnaというコンセプトと、その通りに学園祭に必要な機能を集約している点の評価・ プレゼンターの声の大きさ、滑舌、引き込まれる内容・ わかりやすさを追求するのなら、商品選択の×ボタンを上下に切り替えるなど、作りこむところはまだある
<p>森田先生</p> <ul style="list-style-type: none">・ プレゼンテーションそのものにたいする良い評価・ 今回は団体会計者を主眼においた開発であったが、今後は学園祭本部そのものの視点で使えるシステムを期待したい
所感
<p>最終だけあって、どのチームもレベルの高いシステムばかりでオオトリの私は緊張しました。しかし、プレゼン力は絶対な自信があったので、緊張しながらも気持ちを据えて挑むことができたと思います。ただ、システム部門では2位という結果に終わり、「一人では複数人には勝てない」という悔しさが残りました。メンバーの一宮や富樫も、最後はしっかりと自分たちの役割を果たしてくれたので、安心しました。</p>
次回に向けた改善事項
<p>今度は、一時も目の離せない、人を惹きつけるプレゼンをできるようになりたいです。</p>